

## 第9回千葉県資源評価検討会議 会議録（概要）

- 1 開催日時 平成30年10月25日（木） 午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 千葉県庁本庁舎16階 農林水産部会議室
- 3 出席者 <構成員>  
 県農林水産部水産局漁業資源課長 立岡 大助  
 県水産総合研究センター次長（資源研究室長事務取扱） 鈴木 広之  
 東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史  
 <その他>  
 県関係職員12名

### 4 検討事項

- (1) 平成30年度千葉県資源評価票（案）について
- (2) その他

### 5 検討事項の概要及び検討の結果

第9回の会議では、平成30年度千葉県資源評価票（案）について検討した。

#### (1) 平成30年度千葉県資源評価票（案）について

今回、キンメダイ、コノシロ、スズキ、ヒラメ、マコガレイ、マアナゴ、マダイ、アサリ、クロアワビ、メガイアワビ、サザエ、ダンベイキサゴ、チョウセンハマグリ、イセエビ及びマダコの計15種の資源評価票（案）について検討し、構成員等の意見を踏まえて必要な修正等を行うこととした。

詳細は以下のとおり。

#### <キンメダイ>

- ・構成員から「資源評価の判断」について、何の漁業種類のCPUEで判断したか記載すべきではないかとの意見があった。
- ・議長から国の資源評価では低位、減少となっており、千葉県の資源評価と相違していることについて質問があり、担当者から千葉や神奈川沿岸と伊豆諸島周辺では、魚の年齢構成が違うので、資源状況は変わってくる、千葉では近年、若齢魚の加入が多かったため、資源は増加傾向となっている旨説明があった。
- ・キンメダイの資源評価票については、構成員の意見を踏まえた修正を行った上で、原案どおりとすることとなった。

#### <コノシロ>

- ・議長から昨年度まではまき網漁船の CPUE で資源評価を行っていたが、今年から農林水産統計の漁獲量で評価することとなり、昨年度と評価結果が大分変わってしまったことについて質問があり、担当者から昨年度は 2016 年（H28）まで CPUE のデータが収集でき、2016 年時点の評価を行ったが、今年からは農林水産統計で評価しており、データが 2015 年（H27）までで、評価の時点が古くなってしまっており、評価結果が変わった要因である回答があった。
- ・コノシロの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <スズキ>

- ・構成員からまき網漁船の標本船データがあれば、より正確な評価ができるのではとの質問があり、担当者から現在はデータがなく、まき網漁船に野帳を書いてもらえたとしても、これからのデータの蓄積になるので、資源評価に用いるには長い年月がかかる旨回答があった。
- ・議長から漁業者からはスズキが減少していることを聞いており、この評価は現場の感覚に合っているのではないかと発言があった。
- ・スズキの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <ヒラメ>

- ・構成員から福島で漁業が行われていないことによるヒラメ資源への影響は続いているか質問があり、構成員から福島で漁業が行われず、資源が増加した時代は終わり、その後、ヒラメの加入が少なく、資源は減少する可能性がある旨回答があった。
- ・議長から資源量の推定値について、去年と今年では大分数値に差異があるのはなぜか質問があり、担当者から、元々推定資源量は新しいデータが加わると過去に遡って修正されるものであり、今回 2016 年のデータが新たに加わったことで過去の資源量も大きく修正されたが、これは 2015 年調査の 1 歳魚を過大評価してしまったためではないかと推測している、との回答があった。
- ・ヒラメの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <マコガレイ>

- ・構成員から漁獲抑制や産卵期の保護、種苗放流など様々な取組を行っているが、資源水準、動向ともに厳しい状況が続いている旨の発言があった。
- ・構成員からいずれは何かのきっかけで資源が回復し、その要因が 1 つでもわかれば、

取組を効果的なものに絞っていけるのではとの発言があった。

- ・マコガレイの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <マアナゴ>

- ・構成員から銚子地区で漁獲量が増えているが、沖合底びき網の CPUE が大きく減っているのはなぜか質問があり、担当者から銚子市漁協のアナゴ漁獲量は沖合底びき網以外の漁業種類も含まれているので、他の漁業種類の漁獲が好調だった可能性がある旨回答した。
- ・出席者から「資源管理の取組」で「底びき網」という記載があるが、沖合底びき網、小型機船底びき網など、漁法を正確に書いた方がよいとの発言があった。
- ・マアナゴの資源評価票については、指摘のあった部分を修正した上で、原案どおりとすることになった。

#### <マダイ>

- ・マダイの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <アサリ>

- ・アサリの資源評価票については、漁獲サイズの記載について確認し、必要に応じ修正した上で、原案どおりとすることになった。

#### <クロアワビ>

- ・構成員からクロアワビの資源状況について、現場の漁業者からはどのような声があるか質問があり、出席者から以前に比べるとやや増えているという声をよく聞く、著しく増えているということはないが、全然獲れないということはないと聞いていたとの回答があった。
- ・構成員から千葉県海藻の繁茂状況について質問があり、出席者から内房地区ではほとんどの地先で藻場の衰退が見られており、藻場の復活に向け、原因究明、対策を実施していること、外房地区では藻場の衰退はほとんど見られていないこととの回答があった。
- ・議長から航空写真による調査を行っており、ここ 8 年ぐらいで内房の磯場で海藻が少なくなっている、急激な変化である旨、発言があった。
- ・クロアワビの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <メガイアワビ>

- ・ 構成員から一般漁場はどのような漁場かとの質問があり、担当者から禁漁区や輪採漁場など、管理している漁場ではなく、漁業者が通常操業している漁場であるとの回答があった。

- ・ メガイアワビの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <サザエ>

- ・ サザエの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <ダンベイキサゴ>

- ・ 議長から資源水準が低位と判断される漁獲量は何トンかとの質問があり、担当者から 9.7 トンであり、獲れないときはほとんど獲れない、漁獲量の変動が非常に激しいとの回答があった。

- ・ ダンベイキサゴの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <チョウセンハマグリ>

- ・ 議長から現在、チョウセンハマグリ漁業は非常に好調だが、資源動向は減少となっている、今年の状況はどうかとの質問があり、担当者から九十九里浜の北部地区では、卓越年級群である 2009 年生まれを中心に漁獲しており、中部地区、南部地区ではその後に発生した年級群を漁獲している、2009 年生まれは確実に減少しており、北部地区では漁獲が減少している、1 歳貝の分布密度の変化を見ると、近年の加入状況はあまり芳しくないので、今の資源、漁獲水準を保つのは難しいと考えられるとの回答があった。

- ・ 議長から資源管理を強化する時期だと思うがどうかとの質問があり、担当者から現在の資源や加入状況は、漁海況旬報や九十九里貝類漁業者検討部会で漁業者にお知らせしているとの回答があった。また、議長から漁業者検討部会などで、検討していればとの発言があった。

- ・ チョウセンハマグリの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <イセエビ>

- ・ 構成員から他県では漁獲制限重量を大型化するなどの動きを聞いているが、千葉県ではそういった議論はあるかとの質問があり、担当者から、千葉県では今、そういった議論は行われていない旨の回答があった。

- ・ イセエビの資源評価票については、原案どおりとすることとなった。

#### <マダコ>

- ・構成員から「資源評価の判断」で、CPUE のグラフの縦軸の軸タイトルが「1 水揚 1 隻あたりの漁獲量 (kg/隻・回)」となっているが、どういう意味かとの質問があり、担当者からタコツボ漁業はツボを仕掛けてから引き上げるまで、日数がばらばらなので、1 回の水揚げでどれだけマダコが獲れたかを示している、記載の方法については、検討する旨の回答があった。
- ・構成員から CPUE の振れ幅は大きい、明らかな増加や明らかな減少ではなく、横ばいと判断するのは適当だと思ふ旨の発言があった。
- ・マダコの資源評価結果については、原案どおりとし、一部表現等の修正をすることとなった。

## (2) その他

事務局から今後のスケジュールを説明し、意見等は特になかった。